

インドネシアにおけるより良い復興の時空間推移に関する研究プロジェクトを開始しました (2023/12/9-17)

テーマ：Build Back Better（より良い復興）、2004 年インド洋津波、2006 年ジャワ島中部地震、時空間変化
訪問先：シアクアラ大学、アチエ特別州津波博物館、津波防災研究センター、ガジャマダ大学（建築学部、心理学部）
調査地：2004 年インド洋津波被災地・施設
（バンダアチエ：Tzu Chi（慈濟）town 1（Panteriek）、ジャッキー・チェン town（Perumahan Jackie Chan）、Tzu Chi（慈濟）town 2（Mesjid）
2006 年ジャワ島中部地震被災地・施設
（ジョグジャカルタ：Pleret、Gedung KR Kaliadem ※Merapi 山火山噴火による移転地域）

科学研究費助成事業（科研費）の「国際共同研究加速基金（海外連携研究）」の助成により、「インドネシア被災地における復興評価手法の開発と災害リスク認知の時空間推移の解明（研究代表：村尾修教授（国際防災戦略研究分野）、カウンターパート研究者：Prof. Ikaputra（ガジャマダ大学）、Prof. Muzailin（シアクアラ大学）とするプロジェクト）」を開始しました。この研究の目的は以下の通りです。

「今後さらなる発展が期待され、かつ災害多発国であるインドネシアにおいて 21 世紀に被災と復興を経験したジャワ島、ロンボク島、スマトラ島、スラウェシ島内の地域を対象とし、『より良い復興』を評価する復興評価手法を開発するとともに、被災者の災害リスク認知に関する地域性の違いと被災からの時間経過による違いを解明することを目的とする。そのために、3 つのテーマ（A：リモートセンシング技術を用いたマクロな地域評価、B：現地調査に基づく地区レベルの復興の検証、C：被災地における災害リスク認識の解明）を設定し、空間データによる解析と現地調査を海外共同研究者同伴のうえで実施する。」

（KAKEN ホームページより引用）

2023 年 12 月 9 日（土）～17 日（日）、村尾教授、三浦弘之准教授（広島大学）、齋藤玲助教（認知科学研究分野）、佐藤美月氏（村尾研究室 M2）はインドネシアを訪問し、プロジェクトのキックオフ・ミーティング、インドネシア各地における調査などを行いました。

プロジェクトのキックオフ・ミーティング（シアクアラ大学、ガジャマダ大学（建築学部、心理学部））では、今回の研究の枠組みを再確認し、今後の具体的な研究の計画について話し合いました。現地視察では、2004 年インド洋津波、並びに 2006 年ジャワ島中部地震に係る避難ビルや復興住宅エリア、学校、モスク、復興・伝承施設などの視察に加えて、震災当時の様子やこれまでの復興の過程、現在の暮らしの状態について聞きました。

来年は 2004 年インド洋津波から 20 年、3 年後にはジャワ島中部地震から 20 年を迎えることとなります。今後の研究では、時間や場所によって、より良い復興（Build Back Better）はどのようになされたかについて、上述の 3 つのテーマの鳥の目と虫の目、魚の目から、多角的に検証を続けていきます。

文責：齋藤 玲（認知科学研究分野）
（次頁へつづく）



アチェ特別州津波博物館での Prof. Muzailin（シアクアラ大学）との集合写真
（左から、佐藤美月氏、村尾教授、Mauudawati 氏（アチェ特別州津波博物館）、
齋藤助教、三浦准教授（広島大学）、Prof. Muzailin）



ガジヤマダ大学での Prof. Ikaputra（ガジヤマダ大学）との集合写真
（左から、三浦准教授（広島大学）、Prof. Ikaputra、
村尾教授、齋藤助教、佐藤美月氏）



Prof. Muzailin との打ち合わせの様子



モスクに隣接する震災ギャラリー



避難ビル
(バンドアチェ・Lamjamee)



消防署に隣接する一時避難ビル
(バンドアチェ・Geuceu Meunara)



Prof. Ikaputra との打ち合わせの様子



ジョグジャカルタでの現地視察の様子